

あらゆる手段を使って人脈を広げてみよう！！

■はじめに

人脈を広げることは、情報収集力の向上や視野の拡大、そして自分自身の成長につながります。特に、今後の学生生活の中で卒業論文の執筆や実習などにおいて、あらゆる人々と関わる機会が増えます。ここでは、私の体験談を踏まえて、どのような場面で、どのように人脈を広げていけば良いか説明します。

■「人脈」はどういう場面で広がるのか

①学会やシンポジウム

多くの研究者が集う学会やシンポジウムは、最も人脈を広げるのに効果的な場所です。自分が登壇しなくとも参加することは可能です。初対面の人に自分から話しかけることは勇気がいることだと思いますが、「これは自分のため！」と思って、思い切って行動にうつしてみると、意外と相手も興味を持ってくれて、研究の話が弾みます。

②調査先のヒアリング対象者

文系学生の中には、研究の中でインタビュー調査（ヒアリング）を行う人もいると思います。実は、そのヒアリング対象者が、意外な人脈を広げてくれる大きな役割を果たしてくれる場合もあります。私の経験ですが、ヒアリングでお世話になった方が、ある重要人物を紹介してくださり、その方とは今も交流が続いています。そして、その交流がさらに広い人脈形成へつながっていました。

③図々しく指導教員についていく

これも私の学部時代の経験ですが、指導教員が参加する企画や学会、シンポジウムなどに常に参加していました。その場合、指導教員が懇親会などに誘ってくださり、そこでの人間関係も広がっていきます。指導教員は、教え子が「参加したいです！」といえば大歓迎です。指導教員に図々しく（笑）ついていきましょう。そこで広がる人脈は、のちに自分の研究につながっていきます。

■名刺を作ろう！

このような学会やシンポジウム、その後の懇親会やヒアリング調査において、常に名刺を持ち歩き、自己紹介として配ることが重要です。名刺には、所属（大学・学部・学科・ゼミ）、名前、電話番号、メールアドレスは必ず入れましょう。

名刺交換は、今後の自分の研究にもつながります。名刺交換をした場合は、数日以内に挨拶のメールを入れるのがベストです。最初のうちは、自分から声をかけることに戸惑うかもしれませんが名刺を渡すと同時に軽い自己紹介をすることで、相手も色々な話を振ってくれて、今後の関係性の構築につながっていきます！